

《評価基準》 A: 目標を達成することができた(100%以上)
 B: 目標を概ね達成することができた(80~99%)
 C: 目標を半分程度しか達成することができなかった(30~79%)
 D: 目標をほとんど達成することができなかった(30%未満)

《総合評価》 事業評価委員4名による、内容・件数を総合した、事業の5段階評価

I 経営発達支援事業の内容

| 事業 | 実施した内容 | 実施した件数 | | | | 総合評価 |
|-----------------------------------|--|---------------|--------|--------|----|------|
| | | 項目 | 目標 | 実績 | 評価 | |
| 1. 地域の経済動向調査に関すること (指針③) | <ul style="list-style-type: none"> ●市内の2,299事業所に「経済雇用動向調査」アンケート用紙を郵送し、景況感や売上等の実績、資金繰り状況に加え、国の重点課題に位置づけられている「事業承継」の問題について調査を実施した。463事業所から回答があり、従業員規模別、業種別に整理・分析し、ホームページで公開した。 ●商工ニュース(奇数月発行)に「小規模企業景気動向調査」(全国商工会連合会実施)を掲載した。 | 情報分析・まとめ回数 | 12回 | 12回 | A | 3 |
| | | 商工ニュース発行回数 | 7回 | 7回 | A | |
| 2. 経営状況の分析に関すること (指針①) | <ul style="list-style-type: none"> ●製造業と飲食業を重点的に巡回し、支援が必要と思われる事業所に担当職員をつけて、経営状況の分析を行った。 ●マル経申込者や小規模事業者持続化補助金申請者に加え、セミナー参加者を中心に財務内容や経営内容の分析を行った。 | 巡回件数 | 1,700件 | 1,172件 | C | 4 |
| | | 経営状況分析事業者数 | 160者 | 190者 | A | |
| 3. 事業計画策定支援に関すること (指針②) | <ul style="list-style-type: none"> ●「中小企業会計セミナー」「事業計画策定セミナー」「事業承継セミナー」を開催し、事業計画策定の必要性や策定方法について周知した。 ●定例経営相談会を開催し、事業計画を持たない事業所の計画策定を支援した。 | セミナー開催 | 8回 | 10回 | A | 3 |
| | | セミナー参加者(延べ人数) | 120人 | 129人 | A | |
| | | 事業計画策定支援事業者 | 70件 | 55件 | C | |
| 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること(指針②) | <ul style="list-style-type: none"> ●毎月、定例金融相談会を開催し、事業計画実施に取り組む事業者資金調達面からの支援を実施した。(マル経融資: 12社、95,750千円) ●定例経営相談会を開催し、事業実施に際し専門的な知識が必要な事業所を、専門家とともに支援した。 | 事業計画策定支援事業者 | 70件 | 55件 | C | 3 |
| | | 巡回・窓口相談回数 | 280回 | 283回 | A | |
| 5. 需要動向調査に関すること (指針③) | <ul style="list-style-type: none"> ●三田バル会場で来場者にアンケートを実施し、三田で魅力だと思う事柄や、三田で食べたい物・買いたい物等についてのニーズを収集した。 | アンケート実施回数 | 10回 | 1回 | D | 3 |
| | | 情報分析・整理回数 | 2回 | 1回 | C | |
| 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること (指針④) | <ul style="list-style-type: none"> ●「プレスリリースセミナー」「販路開拓セミナー」「SNS活用セミナー」を開催し、希望者には個別相談を実施して、販路開拓を支援した。 ●「国際フロンティア産業メッセ2018」「ひょうご・神戸チャレンジマーケット」「ライブ&シアターEXPO」に参加する事業所の商談シート策定を支援した。 ●事例発表会を開催し、商工会の支援を受けて販路開拓に取り組んだ事業所のPRを行い、他の事業所への動機づけとした。 | 商談会・展示会の情報提供 | 10者 | 13者 | A | 4 |
| | | 商談会成功セミナー開催 | 2回 | 2回 | A | |
| | | 商談シート策定支援 | 5者 | 6者 | A | |
| | | 商談成立件数 | 3件 | 1件 | C | |
| | | SNS活用セミナー開催 | 4回 | 4回 | A | |
| プレスリリース指導件数 | 5者 | 10者 | A | | | |

《評価基準》 A: 目標を達成することができた(100%以上)
 B: 目標を概ね達成することができた(80~99%)
 C: 目標を半分程度しか達成することができなかった(30~79%)
 D: 目標をほとんど達成することができなかった(30%未満)

《総合評価》 事業評価委員4名による、内容・件数を総合した、事業の5段階評価

II 地域経済の活性化に資する取組

| 事業 | 実施した内容 | 実施した件数 | | | | 総合評価 |
|---------------------|---|-----------|----|----|----|------|
| | | 項目 | 目標 | 実績 | 評価 | |
| 1. 三田ブランド推進による賑わい創出 | ●地元野菜を使った料理の試食会を開催し、青年農業者グループと協力体制構築について意見交換を行った。 ●「三田バル」「三田あきんどまつり」を開催し、三田で生産される農産物、地産地消を行う飲食店などをPRし、三田ブランドの推進を図った。 | 三田バル | 1回 | 1回 | A | 3 |
| | | さんだ朝マルシェ | 6回 | 2回 | C | |
| | | 三田あきんどまつり | 1回 | 1回 | A | |
| 2. 空き店舗対策による地域活性化 | ●空き店舗対策のための現状調査を実施した。 | 空き店舗対策の調査 | 4回 | 1回 | D | |
| | | 新入居者数 | 2人 | 0人 | D | |

III 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

| 事業 | 実施した内容 | 実施した件数 | | | | 総合評価 |
|------------------------------------|--|-------------|-----|-----|----|------|
| | | 項目 | 目標 | 実績 | 評価 | |
| 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事 | ●阪神地区の3市1町(芦屋市・猪名川町・川西市・三田市)の職員で構成される職員協議会の総会と支部研修会を開催し、各地区の情報交換を積極的に行った。 ●昨年に引き続き、会員金融機関と日本政策金融公庫、三田市をメンバーとする金融懇談会を開催した。また、事例発表会や会員交流会に融資担当者を動員し、会員とのマッチングを行った。 | 情報交換会(阪神地区) | 3回 | 3回 | A | 4 |
| | | 情報交換会(金融機関) | 2回 | 1回 | C | |
| 2. 経営指導員等の資質向上等に関する事 | ●年度当初に受講実施計画を作成し、県連合会が主催する研修会に積極的に参加した。職員はそれぞれ階層別、業務別などの区分に応じて全職員が資質向上を目指した。 ●当会で開催した小規模事業者向けセミナーへの参加以外に、事業承継についての研修会、SNS等を活用した効果的な広報についての研修会、新入職員向けに年末調整及び確定申告についての研修会を実施した。 ●毎月1回職員会議を実施し、巡回指導等の実績報告や進捗状況の確認を行い情報共有を図った。 ●窓口相談や経営革新計画策定支援等の際に、経営指導員と経営支援員がペアで対応し、若手職員の育成に努めた。 | 外部研修(県連等主催) | 6回 | 46回 | A | 4 |
| | | 内部研修(商工会主催) | 3回 | 3回 | A | |
| | | 職員会議(情報共有) | 12回 | 12回 | A | |
| 3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関する事 | ●事業評価委員会の設置、意見聴取 ●理事会等で成果報告 ●総代会で成果報告 ●ホームページで成果報告 | | | | | 5 |

<平成30年度事業全体> 総合評価:「3」

- (1) 市内2,299事業所に「経済雇用動向調査」アンケートを郵送し、463事業所から回答があった。今回は「事業承継」に関する質問を追加し、その回答をセミナー開催の参考にするとともに個社支援に活用した。
今後、より実態に合った情報とするためには回答率の向上が課題であり、周知方法等について再考する必要がある。
- (2) 定期的に事業計画策定等を啓発するセミナーを開催し、開催回数、参加者数ともに目標を達成した。会計や、キャッシュレス決済を絡めたセミナーなどは参加者が多かった反面、経営革新や販路開拓などのセミナーは定員に満たなかった。事業者のニーズを把握し、対象を明確にしたセミナーにする必要がある。
- (3) 年度途中の職員変更等により巡回件数は達成出来なかったが、計画通り重点業種(製造業、飲食業)を決めて巡回を実施した。その結果、製造業では廃材の販売先との、飲食業では地元農業者とのマッチングを行った。
- (4) 補助金申請時やセミナー後の個別相談、また、新たに実施した定例経営相談会において事業所の経営状況を分析し、目標件数を達成した。しかし、相談内容への対応という単発的な支援で終わった事業所も多く、事業計画策定支援数は未達となった。計画策定後の実施支援も含め、事業所ごとの支援計画をたてて取り組む体制を整える必要がある。
- (5) 商工会の支援を受けて販路開拓に取り組んだ事業所のPRを行い、他の事業所の動機づけとするため、事例発表会を開催した。参加事業所が少ないという課題は残ったが、参加者の中から補助金申請や商談会に取り組む事業所を発掘することが出来た。

<平成31年度に向けた改善点>

- (1) 「経済雇用動向調査」を継続実施するが、巡回での聴き取りやWEB回答の導入など、回答率の向上策を検討する。
また、結果を個社支援に活用出来るよう、需要動向調査も含め、業種ごとに活用案を明確にし、それに副った調査項目に改善する。
その上で、近隣の需要動向を調査する機会(イベント等)を増やす。
- (2) 巡回は、職員ごとの目標件数や実施する曜日及び時間帯を決めるなど計画的に実施し、結果をデータベース化して共有する。
また、結果に応じて、事業所とともに「実施する項目」「目標値」「実施時期」などの計画をたてて伴走型支援に取り組む。
- (3) 事業計画策定等のセミナーは、巡回等で得た情報を参考にして、事業所のニーズに絡めた内容に改善する。
セミナー動員も、巡回結果や支援計画から必要と思われる事業所に声をかけ、受講後の事業計画策定等に結びつける。
- (4) 事業計画策定後の実施支援も支援計画をもとに取り組み、進捗状況や成果を確認してPDCAをまわす。
- (5) 設定した目標値等に基づいた成功事例を作って公表し、他の事業所への動機付けとして活用する。